



Vol.72 よくもそんなことが言えますね!

「How dear you.(ハウ デア ユー/よくもそんなことが言えますね!)」

昨年9月、スウェーデンの高校生グレタ・トゥンベリさんが、ニューヨークで開催された国連気候行動サミットで、涙ながらに語った言葉です。

グレタさんは、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を抑えることを訴えていて、各国首脳に対し、「生態系全体が崩壊しかけている。私たちは絶滅に差し掛かっているのに、あなたたちが話すのは金のことと、永遠の経済成長というおとぎ話だけ。よくもそんなことが言えますね!」と演説し、日本でも大きく報道されました。



1人の人間が、1年間に呼吸で排出する二酸化炭素の量は、約320kg~370kgとされています。一方で植物は、光合成によって二酸化炭素を吸収・固定する力を持っています。地球温暖化を抑制するためには、二酸化炭素の排出量を減らすと同時に、植物の力を借りるしかありません。フランスの航空会社は、今年1月から国内線で排出される二酸化炭素排出量を実質ゼロにするため、植林や森林保護等を行うと発表しました。

CO2年間固定量(樹齢20年)

クスノキ	49.0kg/年
ケヤキ	66.7kg/年
イチヨウ	32.8kg/年
プラタナス	62.1kg/年



出所:国土交通省国土技術政策研究所社会資本マネジメント研究センター緑化生態研究所HP

樹齢20年の樹木が1年間に吸う(成長するために固定する)二酸化炭素の量は、表のとおりだと言われています。つまり1人が呼吸で出す二酸化炭素を帳消しにするためには、街路樹にすると1人当たり4~5本が必要ということになります。当然、秋になれば、葉も落ちますが、

この秋、家の前の街路樹の落ち葉を自主的に集めてくださっている方々を、市内のあちこちでお見かけしました。「仕方がない」と思ってなのか、「適度な運動になる」と思ったださっているのかは分かりませんが、まちにとっても、ご自身の健康にとっても、非常にありがたいことだと思います。

私たちの日々の暮らしは、効率や結果を求める企業活動のように、「悪いところを切り捨てれば、必ずいいところになる」わけではなく、「いいところを取り入れると、悪いところもついてくる」ものだと思っと思っています。

落ち葉を二酸化炭素を吸ってくれた産物と思うのか、ゴミと思うのかによって、落ち葉に対する見方も変わります。子どもの未来のために、私たち大人は環境に対して何ができるのか、一緒にみなさんと考えていきたいと思っています。



今月の地域伝言板はP12です。

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間  
365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

